

美術学部デザイン科

養成人材およびカリキュラム編成の方針

デザイン科は、未来の変化を先取りして人の暮らしに革新をもたらすような人材を養成することを目的とし、1 学年 45 名と、対話を重視したきめの細かい少人数教育を行っている。10 の研究室の常勤教員と、さまざまな領域の第一線で活躍する非常勤講師による実技課題・技法演習・講義は、専門的な技術や知識を段階的に積み上げると同時に、既存のジャンルにとらわれず自由に資質を伸ばすことを支援する内容となっている。

全教員が指導にあたる教育研究体制のもと、学生は学年進行にしたがってゆるやかなかたちで自分の適性を見定め、じっくりと「やりたいこと」を探し出せる、他には類を見ないカリキュラム編成としている。

求める入学者像

考える力つくる力(観察する力・伝える力を含む)を求める。物事を観察し、全体を俯瞰し、構造を読み取る力として、課題を自らの手で見つけ出し、しなやかな感性と自由な発想で自分の答えを見つける能力を求める。細部にこだわり、美的なかたちにまとめあげ、社会に展開できる力を持つ者や、考える力つくる力で世界を揺り動かそうとする強い意志をもつ学生の入学を期待する。

卒業認定・学位授与の方針

最終年次の「卒業制作」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士の学位を授与する。「卒業制作」の評価は、専任教員全員で卒業制作作品の審査・採点を行い、評価を決定する。

カリキュラム構成

【1 年次】

デザインの基礎力を養う。デジタル基礎と塑像の基礎実技に始まり、「調べること」「機能性を考えること」「観察すること」「素材の可能性を追求すること」への視野を広げる実技課題をこなすことで、創造活動の「足腰」を鍛える。

【2 年次】

発想力と表現力を問う「生活」に根ざした 5 つの実技課題が課せられる。併せて選択制の技法演習やデザインの意味を考える講義を通して、学生は自分の適性と「やりたいこと」を徐々に見つけだすことのできるカリキュラムとなっている。

【3 年次】

現代の社会問題や未来の生活提案力を問う実技課題で、構想力・問題提起力・問題解決力・伝達力を養う。進路を具体的に絞りこんでいけるように、専門性の高い選択授業も用意される。必修の「古美術研究旅行」では、京都と奈良を訪問する。

【4 年次】

自分でテーマを決めて 1 年間かけて卒業制作に取り組む。指導は 10 研究室の教員全員であるが、各教員(研究室)は、主たる学生を 4・5 人担当する。必要に応じて他の研究室での指導も受けられる。

| 教育目標 | | | | |
|--|------|---|-----------|-------|
| ① 未来の変化を先取りして 人の暮らしに革新をもたらす 新しい時代を切り拓く力の育成。 ② 守るべき価値を見定めて 伝統を次の世代へ継承する力の育成。 ③ 人を思いやり、声なき声に耳を傾ける力の育成。 ④ 人間や自然の営みをつぶさに観察し 複雑な事象を整理することで 変化のなかに潜む見えざる文脈を抽出し 本質を読みとる力の育成。 ⑤ 洞察をかたちにする造形力の育成。 | | | | |
| 年次 | 科目 | | ディプロマポリシー | 教育目標 |
| 1～4 年次 | 必修科目 | デザイン実技 I-IV | 1.2.3.4.5 | ①②③④⑤ |
| 1～2 年次 | | デザイン技法 I-II | | |
| 3 年次 | | 古美術研究/専門科目 | | |
| 4 年次 | | 卒業制作 | | |
| 1～4 年次 | 指定科目 | デザイン概説 図学 デザイン原論 外国語科目 西洋美術史概説(選択) 東洋美術史概説(選択) 日本工芸史概説(選択) 日本東洋建築史(選択) | 1.2.3.4. | ①②③ |
| 1～4 年次 | 選択科目 | 共通科目 | 3.4. | ②③④ |